

岩手県野田村の支援活動報告（2011年5月18日）

当日は朝から快晴、気温が高くなりそうな日でした。本日の活動への参加者は35名で、うちわけは、男性23名、女性12名、所属では学生13名、市民20名、教員2名でした。今回はそれに、弘前でいち早く民間での被災地支援を始められた「エコ遊」の土岐先生と「動こう津軽」の三上さんも同行していただきました。今回は大型バス一台に加えて、大学からワゴン車を一台用意し、避難所などを回ってニーズ調査を行うことを試みました。

野田村災害ボランティア・センターの方の話によると、本日のセンターを通じたボランティア数は、団体参加5つと個人参加15名で、計52名でした。我々のチームオール弘前が30名と断トツで多かったです。本日、センターからのボランティア派遣は、全部で7件行われましたが、あと6件は人手不足により手が回らなかったようです。



本日の参加メンバー。道の駅「おおの」にて。



センターの自転車を借りて作業に出発！

チームオール弘前の今日の作業は、ガレキ撤去10名が2組、畑の整地作業に5名、米の小分け作業に5名、それに避難所等でのニーズ調査に5名ということで、5つに分かれて行いました。

ガレキ撤去は、場所のオーナーの方と協同したりしながら、女子学生もたいへん頑張ったようですが、とにかく暑くてきつかったそうです。また、米の大きな袋を開けて小分けにする作業も、屋内なので暑さはともかく、作業自体が予想以上に重労働だったとのことでした。

一方、私たちは土岐先生の導きのもと、避難所や仮設住宅、民間企業などを回りました。ニーズ調査といっても、もちろん初対面で「調査」というよりは、まずは少しお話をする機会があったらいいなと思っていたのですが、野田村のみなさんがやさしく接して下さることや、土岐先生がすでに良い関係を築いていらしたこともあり、いろいろなお話を聞かせていただきました。多くの避難所では、すでにかなりの方が仮設住宅に移っておられ、いくつかの避難所では、近くに仮設住宅が完成するのを待っておられました。



野田小学校の避難所でみなさんとお話。



仮設住宅にて。まだ煮炊きはできない。

恒例となった復路のバスでの感想を共有する時間には、さまざまな声がありました。とくに主な要望としては、以下のようなご意見がありました。

- ・今の長袖のジャンパーはたいへん暑い。ベストタイプの着るもの（ビブス）があった方がよい。
- ・午後の作業では日陰の休む場所がなくなった。これから暑くなるので、その対策を真剣に考えるべきだ。
- ・ボランティア・センターができたのを学生はあまり知らない。学内でもっと宣伝した方がよい。
- ・弘前大学ボランティア・センターには専用のメーリングリストがあって情報を共有しているようだが、一般市民用にもそうしたメーリングリストを作って情報を流してもらえるとありがたい。

すぐに実現可能なことと、なかなか難しいこととがあるのですが、できるだけ生かす方向で検討していきたいと思います。今回もバスの中では、復興の歌「幸せ運べるように」を高らかにみんなで歌いました。疲れた身体にひときわ染み入り、今日も多くの方々と一緒に活動ができたことに、感謝したいと思いました。

(人文学部・山口恵子記)



野田中学校の中の避難所。



国民宿舎の避難所。見事な木彫りの魚を展示